

議事要旨(3) IFRS財団コメント募集「デュー・プロセス・ハンドブック」へのコメント対応について

冒頭、加藤副委員長より、IFRS財団コメント募集「デュー・プロセス・ハンドブック」が公表された背景やその特徴及びASBJのコメント文案の概要やコメントの中で特に強調する事項について説明がなされ、星野専門研究員より、個別の質問事項に対するASBJのコメント文案について詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な発言と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

- あるオブザーバーより、(1) IASB は 30 日を下回らないコメント期間を短縮することができることについて、過去の経緯との関係があるため、文案の中でコメントしない方が良いのではないかと、(2) IASB ボード会議におけるスタッフペーパーの配布時期の早期化についてのコメントは、特定の関係者の意見が反映されてしまう可能性があるため削除すべきではないかと、(3) 結論の背景と設例の規範性についてのコメントは、誤解が生じるので避けた方が良いのではないかと発言があった。
 - (1) 事務局から、グローバルな基準であることから、30 日の期間は短すぎであり、最低 60 日はとるべきである趣旨であるとの説明がされた。また、ある委員より、歴史的な経緯も分かるが、世界各国から意見を出してもらうことを考えれば、60 日を確保することに賛成するといった発言もなされた。
 - (2) 事務局から、これにより審議はゆっくりとなるかもしれないが、暫定決定が覆ることを避けることができ、結果的に、早く進むことも考えられるとの説明がされた。ある理事より、アウトリーチも実施されているが、限定的な範囲でしかない。暫定決定が覆ることは効率的ではなく、暫定決定をする前に、利害関係者の意見を広く捕らえるプロセスが必要であるとの発言がされた。ある委員より、早期配布を必要とする場合については、暫定決定をする場合等、分かりやすい他の表現があるのではないかと発言がされた。ある委員より、反応がどの程度でいいのかにもよるため、早期化することに効果があるかどうかとも考慮すべきとの発言があった。最後に、事務局から、書き方については考えたいとの説明がされた。
 - (3) 事務局から、実務では良く使用されているものであり重要性があるものだが、規範性という用語については適切ではないので考えたいと説明された。ある委員より、規範性という用語は、どこまで意図しているのか、別の意味が出てくる可能性があるとの発言がなされた。
- ある委員より、サテライト・オフィスの位置付けとして、具体的は要望・提案はある

のかという質問がなされた。また、ある委員より、こちらの期待感をだした方が良く、提案を実行することが重要となるので、記述できるならば、記述した方が良いとの発言があった。

これに対して事務局から、サテライト・オフィスはこの秋に開設されるので、役割については現在検討中であり、最終的には IFRS 財団が決めることなので、役割が決まったら記述して欲しいという趣旨で記述しているとの説明がされた。

- ある委員より、フィールドワークの透明性の確保に対するコメントについて、特定の地域や団体に偏ることではなく、幅広く実施して欲しいという趣旨を表現した方が良いとの発言がなされた。

これに対して事務局から、ご意見を踏まえて、表現を考えたいとの説明がされた。

最後に、西川委員長より、コメント期間については、今回の重要事項の一つであるため、意見交換して検討したいとの提案がされた。加藤副委員長より、いただいたご意見を検討して、修正すべき点を修正して、また検討していただきたいとの説明がされた。

以 上